



10月24日、11月6日にかけて、芝山町高田に所在する高田2号墳の第5次発掘調査が行われました。高田2号墳は、墳丘長約54mの前方後円墳です。古墳時代後期（西暦6世紀）に築造されたと考えられており、平成23年夏以来、早稲田大学が4次にわたって学術調査に取り組んできました。

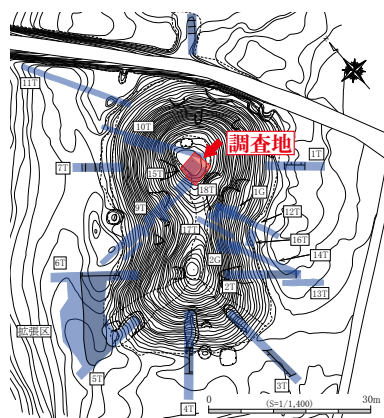
これまでの調査では、次の3つのことが分かっています。

- ①長方形の二重周溝を有すること
- ②横芝光町の殿塚古墳（国史跡）と共通した墳丘の設計企画を持つこと

③下総型と九十九里Aという異なる工人集団が製作した埴輪が共存すること

今回の第5次調査は、早稲田大学東アジア都城・シルクロード考古学研究所と芝山古墳・はにわ博物館の共同調査として実施しました。

平成23年の第1次調査（測量・地中レーダー探査）で、後円部の中心に埋葬施設が存在することが推定され、平成24年の第2次調査と平成25年の第3次・第4次調査の発掘では、箱式石棺（石を箱状に組み合わせた棺）の一部を検出しています。



今回の調査では、箱式石棺の規模と構造を明らかにするため、石棺の範囲全面を発掘しました。棺材には凝灰質砂岩と呼ばれる軟らかい石を四角く切り出し（切石）、それらを数段積み上げることで石棺の壁体を構築しています。

過去に二度、大規模な盗掘を受けていたため、蓋石は外されて中心部分も大きく破壊されていました。しかし、石棺の周りに掘られた墓壇の一部や石棺を据え付けた際の裏込め土を確認できました。

石棺の上面を検出したことで、今回の調査で石棺内部の様子を明らかにすることが課題となりました。早稲田大学とはにわ博物館では、今後も継続して学術調査を実施する予定です。

学生の声

発掘調査を終えて

早稲田大学文学部
考古学コース
3年 梶原 悠渡さん

調査中は、埋葬施設の構造や石棺の残存状況に関する解釈が日々更新され、現場では先輩後輩の垣根を越えた活発な議論が交わされました。

高田2号墳の発掘は、私にとって大学生活で初めての調査でしたが「発掘が進むごとに解釈が変わる」という遺跡発掘の醍醐味を体験することができました。

町長をはじめ芝山町の方々には、期間中大変お世話になりました。今回の調査成果の公開や次回以降の発掘調査を通じて、より一層皆さんとの交流を深められるようにしていきたいです。



▲発掘調査をする梶原さん



①空飛ぶ学び舎ラボの外観

②「空飛ぶ学び舎ラボを町民の皆さんが学び合える場所にしていきたい」と将来を見据えるJMRSの皆さん



空飛ぶ学び舎ラボとは

11月1日
オープン

スカイパークしばやまの新名所

空飛ぶ学び舎ラボの魅力を探る

航空科学博物館の敷地内にあったレストハウスを全面リニューアルして誕生した施設です。

運営を行っているのは、成田国際空港を中心に各地の空港にて航空教育プログラムを展開している「株式会社JMRS」。

航空や空港を活用したキャリア教育を行いたい学校、航空業界を志す学生などと呼ばび込み「航空教育の聖地」として町の資源の活用と活性化を目指しています。

スカイパークしばやまにオープンした理由とは

スカイパークしばやまには、航空資源である「成田国際空港」、航空に関する情報センター「航空科学博物館」、航空機に視覚と聴覚で触れられる「離発着コース」がそろっています。

これらの条件が「航空教育の聖地として最適である」という理由で、スカイパークしばやまのオープンが決定しました。

イチ推しポイント①

機内を再現したモックアップ

1階には、機内を再現したモックアップ（実物大機体の模型）を設置しています。この場所は、航空機内や空港の雰囲気に触れながら、航空教室などの学習空間として活用できます。

イチ推しポイント②

イベントの場としても利用可能

プロジェクターやマイクなどの機材の貸し出しも行っており、イベントの場としても利用できるほか、機内食流の「空飛ぶ学び舎弁当」を手配することもできます。

※各種講座と弁当料金は、施設使用料とは別に料金がかかります。

イチ推しポイント③

現役スタッフによる航空教室

現役パイロットやキャビンアテンダントなどによる航空教室により、航空業界をより深く学ぶことができます。



▲机には航空図がデザインされている



▲滑走路をモチーフにした入口



▲現役パイロットも在職